

# 仕事の現場から

Vol.13

卒業生に  
仕事についての喜びや、  
獨大生に向けてのメッセージを  
語っていただきます。

## いま夢中になっているものが いつか自分の強みになる



武田薬品工業株式会社  
日本オンコロジー事業部 血液腫瘍領域部  
つげの まさる  
柘野 勝 さん(15年仏卒)



M R(医薬情報担当者)として、医師や薬剤師といった医療従事者に対し、医薬品や疾患についての情報提供を行っています。現在の部署では、特にリンパ腫や骨髄腫など「血液がん」領域の治療にあたる千葉県の大病院を中心に担当しています。自社の薬剤に関する情報に加え、治療に関する最新の研究成果(論文)を学び、いつでも医療者の求めに応じて答えら

れる準備をしています。

診療所やクリニックなど地域の「かかりつけ医」になるような医療従事者を対象に、専門医から治療に関する情報提供を行う講演会を企画・開催することもあります。また企業としてがん関連疾患の啓発活動を行っており、医療関係者が行う市民公開講座などをお手伝いすることもあります。こうした講演や講座を通して疾患について理解を深めてもらうことで、地域での治療を間接的にサポートしています。

病気にかかる、患者さん自身だけでなく家族など周りの人たちもネガティブな気持ちになることもあります。治療によりこうした状況を変えられる「医療の仕事」には、大学入学前から関心を持っていました。理系のイメージが強い業界ですが、MRなら文系出身者でも関わることが出来ます。医師への情報提供やサポートを通して、命に関わるような疾患の治療にも貢献できるところに、やりがいを感じています。

失敗することも、もちろんあります。医師が多忙な時に求めている情報を一方向的に伝えてしまい叱られたこともありました。改善のきっかけになったのは、尊敬できる人たちと出会えたこと。特に、自らの仕事や時間の使い方、ストイックな医師の姿は、自身の仕事に対するモチベーションにもつながりました。



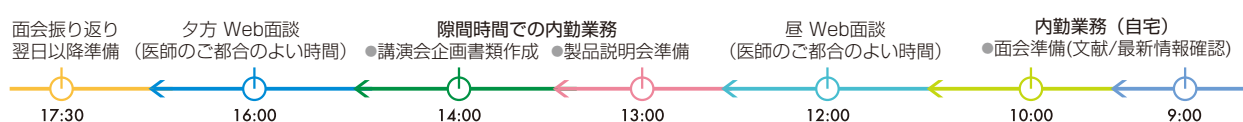
社内ではデジタルトランスフォーメーション推進にも携わっています。

現在は新型コロナウイルスの影響でテレワークが中心となり、医療機関を訪問することも難しくなりました。それでも、オンラインで医師に情報提供する際、遠方の社内各部門担当者が同席し、チームで説明にあたるなど、こうした状況だからこそできること、得られる経験があるのではないかと考えています。

常々感じるのは、学生時代を含めこれまでの経験がすべて現在の自分につながっているということです。在学中には「ダンスフリースタイル」の代表を務めました。150人以上の部員と関わる中で、それぞれの話に耳を傾け、相手の考えや気持ちを推し量る習慣が身につきました。これは、医師をはじめ多くの方と関わるMRの仕事に役立っています。

目の前にある事物にいまは価値が分からなくても、後になって意味を持つことがあります。学生のみなさんには、自分が夢中になれることは、どんなことでもやり続けてもらいたいです。

柘野さんのある一日のタイムスケジュール



※ 新型コロナウイルスの影響前は車移動であったが、現在、移動時間が大幅にカットされ、これまで以上に有効活用可能な時間が増えた。